

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0770302008		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホームみやま2階		
所在地	福島県郡山市富田町字上ノ台60-13		
自己評価作成日	令和 1年 8月 30日	評価結果市町村受理日	令和2年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和元年10月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様や職員が、伸び伸びとできるよう枠にとらわれず、生活・就労している。</li> <li>・個人の能力が発揮できるよう、入居者様だけではなく、職員自身が楽しいと思える環境作りをすることで離職者がでないよう心掛けている。</li> <li>・入居者様や職員同士が想いを打ち明けられる雰囲気づくり、関係性が築けるよう努めている。</li> <li>・火災訓練の他、地震、豪雨や竜巻等による災害、断水や停電時の対応といった災害対策訓練にも力をいれ、月に一度訓練を実施している。また年に一度、消防操法大会に参加し、消防に対する意識を高めている。</li> <li>・地域の方々やご家族様にも参加を呼びかけ、緊急時に即対応ができるように努めている。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に一度、職員と一緒に理念の見直しをし、全職員で地域に根差した理念を作成している。また、毎朝の申し送り時に声に出して読むことで、意識を高め合いサービスにあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員の方々にホームの行事に参加して頂いたり、利用者様と一緒に地域の清掃・草むしり、学校行事等に参加する事で、地域の方々と交流が深まるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、町内会会合、各種イベント参加時に認知症についての支援の方法等を説明している。また、外出時に公共の乗り物を使用したり、ホーム周辺の散歩をすることで暮らしぶりを知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議の中でホーム内の状況報告・情報交換等を行っている。改善課題などについて相談し、意見やアドバイスなど頂いて、ケアの向上に活かせるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月生活支援課へ出向いた際や電話、利用者様の状況に合わせ、支援の協力や意見の交換等を行なっている。また、三者会議の際に情報交換等も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず、利用者は戸外へ自由に出入りできるようにしている。拘束をしない事から、家族へ入居時や必要に応じて話し合いの場を設け、予測されるリスクについての説明をし理解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	3カ月に一度、身体拘束等適正化検討委員会を開催し、身体拘束について正しく理解できるよう、話し合いの場を設けている。また、話し合った内容について、スタッフ会議で報告し、議事録の閲覧することで全職員で周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様で成年後見人制度を活用されている方がいる。制度についての勉強会を設け、制度の理解に努めている。また、必要に応じて、家族へ後見人制度の活用を提案する時もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事態調査の段階から、家族に料金説明、大まかな契約内容の説明等を行い、入居時には重要事項説明書・契約書に沿って説明を行なっている。疑問や不安についても、その都度確認し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には関わり合いの中でご希望をお聞きし、ご家族様には面会時や電話等の対応時に要望や意見を伺うようにしている。それらをスタッフ会議や運営推進会議等で話し合い反映させている。また、苦情や率直な意見は前向きにとらえホーム運営やケアの向上に活かすようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームは全職員で造るものと考え、スタッフ会議やケース会議、または一対一でスタッフからの意見を聞きホーム運営やケアに活かしている。本社に相談する件に関しては遅滞なく相談し、職員の意見が運営に反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が伸び伸びと働けるよう、できるだけ意見を尊重している。職員の努力や勤務状況を踏まえ個人評価を行い、昇給・昇格等をしている。また個々の家庭事情や悩み等は一対一の場を設け話を聞いて対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルに合わせたホーム内外での研修に参加して頂いたり、資格取得へのバックアップ等を行ない、スタッフのケアのレベルアップに努めている。また、フォローしながら未経験の事にも挑戦して頂くことで、技術や知識を身につけられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所職員の集まり(グループホーム連絡協議会や同事業所系列の各グループホーム等)での研修等に参加し意見の交換や情報交換を行っている。他ホームの良い部分を自身のホームに取り入れ、ホームの向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入に際して、実態調査などのインタビュー時には、本人の思いを汲み取ることを第一に受容と共感の姿勢に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との信頼関係と同様に家族のこれまでの苦労や困っていることへの傾聴を通して関係性を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望をもとに支援するうえで事業所のみで完結することのないよう、家族の介護力や地域資源にも目を向けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側という関係性ではなく、一緒に過ごし長い時間関わることでお互いをよく知る相手となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いや、これまでの関係を踏まえつつ、家族を一番の相談相手とし、共に支援を実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の人間関係や社会とのつながりを把握し、それらを断ち切ることのないよう、機会を設けるなどの支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性などを考慮した居場所作りをし、共に楽しい時を過ごしたり、助けあいながら暮らせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了に際しては、サマリーや具体的な申し送りをを行い、スムーズに新しい環境へ移行できるようにすると同時に相談対応にも努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援にあたり、本人の意向を第一に、実現に向けた取り組みを行なっている。把握が困難なケースはこれまでの経緯や仕草、表情などからくみとる努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者それぞれのこれまでの暮らしや歴史を知るための取り組みを行い、またそれらが今後も継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の状態や、活動について、記録や申し送りを通してチームで共有し、総合的な把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の立案やモニタリングの際には、本人と家族の意向をもとに、関係者が意見を出し合っで作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子を具体的に記録し、情報を共有することで統一したケアの立案・実施に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ本人や家族の意志を尊重し、希望するニーズに応えられるよう常に新しい情報に目を向け取り入れられるようにしている。また枠に捉われない柔軟な支援をすることでサービスの多様化を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加することで地域との交流を図っている。またボランティアの方や近隣の方には行事に参加して頂いて交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ利用者や家族が希望する医療機関を利用できるよう支援している。また詳しい状況説明、情報の提供を行うことでかかりつけ医との関係を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、医療連携看護師が利用者の体調を確認している。相談に対しては助言や意見を頂いている。また医師との連携がスムーズにいくよう介入して頂くこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供や交換を行なっている。入院中は定期的に病院にお見舞いに行き、早期に退院できるよう病院関係者との関係作りを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時・終末期に看取りについての意向を書面にて確認している。終末期には再度話し合いの場を設け、協力し合いながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全員参加の救急訓練を行なっている。また外部での研修にも積極的に参加し職員全員が実践力を身につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、防災訓練を行ない、災害時に的確に避難誘導できるよう訓練を行なっている。また地域との連携を図り、災害時の協力を呼びかけている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴を把握・理解し、人格や誇りを傷つけないよう、配慮しながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも相手の立場にたち、本人に問いかけ自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズム、ペースに合わせ、希望や要望に耳を傾けながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、外出時などは身だしなみを整え、季節や気温を考慮しながら、本人の希望に沿ったものを着用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	一緒に野菜の収穫を行ったり、職員も一緒に食事を摂りながら談話することで食事が楽しい時間になるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食事形態に考慮しながら調理を行っている。また水分や栄養が摂れない時には経口補水液や栄養剤を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は緑茶でのうがいや、声掛けにて歯磨きすることにより、清潔保持できるよう支援している。また意思疎通が難しい方に関しては職員がケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンや身体機能を把握し、オムツは極力使用せず、気持ち良くトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品、十分な水分の摂取を促し、水分を摂ることが苦手な方に関しては好みの飲料を提供している。また運動や腹部マッサージなどを行い便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の様子を観察したり希望を伺うなどしたうえで対応している。入浴を拒まれる方に関しては原因がなにかを把握し、喜んで入浴して頂けるよう声掛けも工夫し支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠されている時は身体への負担を考えベッドでの臥床やソファで休んで頂くなどしている。夜間は眠れない訴えがあった時には温かい飲み物を提供したり安心して眠れるよう声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関への受診や訪問診療の際には日ごろの状態を適切に伝えることで服薬調整につなげている。また誤薬を防ぐため、薬袋の色分けやチェック体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の要望に添い、買い物や外食・外出の支援を行なっている。将棋等の趣味をお持ちの方にはスタッフが相手を務めたり、時にはタブレットを使用するなど日常を楽しんで頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事には家族やボランティアの協力のもと一緒に外出を楽しんで頂いている。また昔馴染みの場所にバスや電車を乗り継いで思い出の旅を計画・実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は家族同意のもとお金を所持し、買い物の際は本人の好きな物を購入されている。また毎週土曜日パン屋の来所があり、好きなパンを購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合は随時使用できるようにしている。手紙も本人の希望に応じて作成や発送の手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節ごとの掲示物を入居者と共に作成することで季節感を得られるよう工夫している。また温度や採光に気を付けて入居者の心地よい場所作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が思い思いに過ごす事が出来るよう、テーブルやソファの配置を考慮し、空間確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	これまで使用してきた馴染みの品や家具を配置し、使い続けることにより家にいるような安心感を持って過ごせるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力や行動パターンを把握し、出来る限り自分で行えるよう、見守りや必要に応じた介助にて残存機能を引き出し、出来る喜びを持って自立した生活が維持できるよう支援している。		